

## 第2回 犀川周辺エリア魅力向上整備基本計画検討委員会 議事概要

### 【開催概要】

日時：令和7年9月26日（金）10:00～11:00  
場所：金沢市役所第二本庁舎 2階 2202会議室

### 【議事要旨（意見交換）】

＜甚田委員＞

- ・9月15日（月）夜に発生したW坂の欅の倒木について、斜面緑地として緑を保全しなければならないという市の立場は理解できる一方、いかにこの緑を適切に管理するかが、今回のような事故を未然に防ぐために重要であると感じた。
- ・清川町の住民より、W坂周辺の木々が繁茂しているため、剪定してほしいという要望が出ており、この度の倒木もあったことから、新堅町地区町会連合会から市へ、周辺の緑の適正な管理について要望を提出したところである。
- ・今回倒木した欅以外にも、根がずれてきている桜の老木が残っており、危険があると感じている。今回の計画範囲にも桜並木があり、これらが無くなると風景としてこのエリアの魅力が半減してしまう。県・市に加え地元も連携して「犀川桜プラン」を策定し、計画的に植え替えしていくべきか。
- ・2年前、根が傷んだ桜について、県央土木に相談して除去してもらい、その後金沢スポーツ事業団に依頼して、新しく桜の苗木を植えてもらったことがあった。このように維持管理だけでなく、適宜植替えて新たな桜を育てていくことが重要ではないかと思う。
- ・木々の中には、地域住民が植えたものや団体が記念植樹等を行ったものなど様々あるが、維持管理だけでなく、植え替えをめざすかたちでのステージアップを検討してほしい。
- ・都市の個性として大切にすべき緑の保全と維持管理の調和について、地元も協力しながらそのあり方を考えていきたい。

＜丸谷委員長＞

- ・桜は市民も楽しみにしているため、維持管理に住民も関わりながら、計画的な更新について考えていくことは大切であり、計画の中でも明記する必要がある。

＜石川委員＞

- ・私は新堅消防分団に所属しているため、W坂の欅が倒木した際に出動し、現場対応を行った。倒れた木が道路を塞いでしまっていたため、チェンソーで切って道路上から除去しようとしたが、管理者が誰か分からなかったため、切らないでほしいとのことで対応できなかった。今回は人的被害が無かったが、万が一の場合もあるので、木の管理者について現地で分かるような表示があると良い。

＜丸谷委員長＞

- ・管理者が誰か分かるようにしておくことは、緊急時の現場対応の際にも重要になる。特に河川区域は県・市の管理が複雑なエリアであるため、維持管理上も明確になっていいると良いと思う。

＜伊藤委員＞

- ・犀川の河川敷には木が植えられず、構造物も無いため、桜並木が唯一の木陰になっている。河川空間を賑わいの場として生かす場合、木陰は必要不可欠であり、景観的な面だけでなく、その場で過ごすという面でも桜並木は非常に重要な役割を担っている。
- ・今後、老木となった桜を植え替えていく必要があるが、どのように育てていくか、緑陰をどのように作っていくのか、開花時期以外の樹木の役割についても計画の中に明記する必要があると思う。

＜石川委員＞

- ・桜橋右岸下流河岸緑地について、現在、消防団の駐車場として月に2回ほど活用している。整備した後は、消防団が駐車できるスペースが無くなるのではと心配している。駐車スペースが無くなる場合、代替の駐車場を確保してもらえるのか。

＜丸谷委員長＞

- ・3、4台必要といったところか。

＜片桐委員＞

- ・以前、桜橋右岸下流河岸緑地には銀行があったかと思うが、当時はどこに駐車していたのか。

＜石川委員＞

- ・活動は銀行の営業時間外である日曜日や祭日、出動は夜間が中心だったため、銀行の駐車場を利用させてもらっていた。

### ＜稲荷委員＞

- ・過去に桜橋右岸下流河岸緑地で事業を行った際、キッチンカーや休憩スペースを横断して緑地の奥に車を駐車せざるを得ない状況であった。このような状態は危険なので、整備の際は、駐車場や車の動線についても検討する必要がある。例えば、車は本多通りから直接緑地に入るのではなく、緑地と宅地の間の道路を活用してはどうか。
- ・基本方針として「滞在・回遊拠点の整備」や「親水空間の充実」という記載があるが、現在の犀川河川空間は、陽射しを避けられる空間があまりなく、また、ゆっくりと川を眺められるベンチなども整備されていない。  
以前、丸谷先生と片桐先生の勉強会で、河川空間に仮設の構造物を設置し、憩いの場を整備した事例を紹介してもらったことがある。こういった事例のように、陽射しを避けることができる屋根や椅子を整備し、ゆっくり休むことができる空間が整備できれば、犀川河川空間での滞在時間を長くすることができるのではないか。
- ・緑地を利用した際、電源がなかつたため、発電機を手配して対応した。  
発電機は音が大きいため、利用者が使える電源を整備してほしい。
- ・また、何度も申し上げたことだが、犀川沿いのコンクリートの堤防は築造して60年程度経過しているため、老朽化していることが考えられる。問題ないということであれば、問題ないことを示す調査等を実施してほしい。数値的な根拠が示されれば、市民も安心でき、災害の抑止にもつながるのではないか。

### ＜丸谷委員長＞

- ・先日、片桐先生と桜橋右岸下流河岸緑地や河川敷の現地を視察した。その中で、キッチンカーの搬入・搬出は緑地と宅地の間の道路を動線とすべきという意見や、2階建ての建物として、2階はカフェ、1階は日陰となる休憩スペースにできるような建物のアイデアなどが出た。
- ・稲荷委員の指摘と同様に必要なポイントと考えており、計画にも反映できると良い。

### ＜片桐委員＞

- ・桜橋から犀川右岸側の河川空間にアクセスしようとすると、道が細くなったり太くなったりしている箇所や、桜橋の既設階段があるなど複雑な構造となっているため、これらを整理する必要があると感じている。車椅子等によるアクセスといったユニバーサルデザインの視点も踏まえつつ、人の導線について丁寧に検討する必要があるのでないか。

- ・先ほど護岸に関する指摘もあったが、桜橋右岸下流河岸緑地は本多通りから一段低く、浸水リスクも一定程度あることが想定されることから、拠点を作る場合には、1階部分には機能を詰め込むのではなく、ピロティのような構造で、日影ができる半屋外の空間とし、雨を避けながら安全に河川空間を楽しむ機能を考えられればいいのではないかと思う。

＜甚田委員＞

- ・稲荷委員からも意見があったが、堤防のクラックが激しかったため、県に要望を提出した。地域住民は過去に犀川の氾濫被害を受けたことがあるため、堤防の機能を確保して地域の防災力を高めていくことは、住民の安心につながる。現在犀川の堤防は石を積んだ構造となっており、強度について不安を感じるため、ぜひ調査をお願いしたい。
- ・犀川大橋北詰から河川空間へアクセスできる階段については、下流から上流に向かって下りる階段となっているため、氾濫時に逆流し、犀川大橋の土台を侵食しないのか、という点を非常に心配している地元住民がいる。
- ・また、犀川大橋北詰に階段を設置することで、交通事故が発生するリスクが高まることを懸念しており、歩行車・自転車と自動車の通行において施工後の安全を確保するのは難しいのではないか。また、仮に交通量の観点から自動車の迂回路を設定する場合は、周辺の狭い道路に多くの自動車が進入することに関して住民から懸念も示されている。そのため、交通環境や河川への影響等を踏まえると、階段設置に関して地元説明で承認を得るのは難しいことが予想される。
- ・犀川大橋の右岸側には、少し下流に進むと既設の階段もあるため、あえて新たな階段を整備するのではなく、既存の階段を有効活用してはどうか。
- ・検討の結果、予定どおり下流から上流に向かって下りる構造の階段を整備するということであれば、昨今の異常気象等も踏まえた流量計算を行い、数値的な根拠をもって問題がないことを示してほしい。

＜諸江委員＞

- ・犀川大橋北詰の階段整備については、構造上の課題があるのであれば、通常どおり上流から下流に向かって下りるかたちで設置するなど再検討の余地はあるかもしれない。
- ・問題提起したいのは、犀川大橋北詰に向かう道路で抜け道利用が多いことであり、エリア全体の交通状況を踏まえ対応を検討する必要があるのではないかということ

である。

- ・例えば北詰交差点は左折専用、一本片町寄りの道路を右折専用として交通の流れを分散するなど、全体的な検討を経て、歩行空間としてのこの場所の課題解決を考えいくことが大切なのではないかと考えている。
- ・歩行空間を確保できるのであれば、先ほども申し上げたとおり、階段は上流から下流向きに付けるのでも構わないし、或いは「くの字」のような構造も検討できるかと思うので、流量計算等も踏まえ検討すればいいのではないか。
- ・また、現在エリア内では右岸の犀星碑そばにしかトイレがない状態で、河川空間での滞在を勧めている割には水道も電気もない状況なので、親水空間を楽しみたい方に寄り添う施策の検討をお願いしたい。

＜丸谷委員長＞

- ・堤防については、県央土木が定期的に管理していると聞いているが、現在検討していることがあれば教えてほしい。

＜事務局＞

- ・下流から上流に向かって下りる階段の整備の検討にあたっては、流量計算は既に実施している。犀川大橋において100年確率の計画流量が設定されており、階段を整備しても支障がない程度の流下能力が維持できることは確認している。  
また、天端までの満水状態を想定してもまだ余裕がある状況である。
- ・内容を問わず、河川空間のハード整備においては整備による流下能力の低下は多少はどうしても発生するものであるため、これをもって整備の是非を検討するとなると、河川空間では全く整備ができないことになってしまう。
- ・については整備検討にあたっては計画流量に対してどの程度余裕があるかを目安にしているものであり、しかも下流については更に狭くなっているため、階段を入れても河川全体の流下能力には大きな影響を与える、現在の設計地点での施工についても大きな問題はないと考えている。
- ・ただ、現在の整備イメージ（下流から上流への階段整備）に対して地元住民の抵抗感が強い場合は、逆向きの整備について再検討の余地があるかもしれない。
- ・堤防点検については、水門や重要構造物などは、計画的な点検調査を行い、機能診断結果に基づいて壊れる前に直すという予防保全型の維持管理を実施している一方で、

堤防は予防保全型の維持管理をする位置づけになつてないためこうした対応が難しい面がある。引き続き、パトロールや住民の通報などで、できる限り早期に破損等に対応するかたちで維持管理を行っていきたいと考えている。

＜丸谷委員長＞

- ・甚田委員、諸江委員から、犀川大橋北詰の交通状況に関する指摘もあったが、事務局から改善策などの検討方針があれば教えてほしい。

＜事務局＞

- ・犀川大橋北詰の道路は、朝夕の交通量が多いにも関わらず、歩車分離がされていない現状がある。まずは計画骨子案にも記載の通り、管理者である道路管理課を中心に、道路空間の配分や注意喚起の見直しなどの対応を検討したいと考えている。今後の検討事項として「関係機関との調整」という記載もあるとおり、諸江委員の意見にあつた信号機の調整などにおいては、警察等関係機関との協議も必要であることから、一定の時間も要すると思われるが、状況の改善に向けてどのような工夫ができるか検討していきたい。

＜丸谷委員長＞

- ・トイレの設置についても意見があつたが、左岸側でどこか設置を検討できる場所はあるのか。

＜甚田委員＞

- ・昔は新橋の左岸（石野病院の向かい辺り）にあつたと記憶しているが、現在は撤去されており、左岸側には長いスパンでトイレがない状況である。右岸側には、室生犀星文学碑の近くのほか、下菊橋のところなどにも設置されている。

＜丸谷委員長＞

- ・トイレをはじめ、滞在できる環境づくりが重要である。

＜諸江委員＞

- ・歩いている方も多いが、どうしてもトイレの問題で右岸側に行かざるを得ないこともあります。

＜丸谷委員長＞

- ・計画策定の中でも、こうした視点も大事かと思うので検討頂きたい。

＜笠原委員＞

- ・私は金沢出身であるが犀川周辺地域ではないため、地元というよりも観光客にも近い目線で議論を聞いていた。ハード面を整備することの重要性を感じる一方で、ソフト面も重要ではないかと思う。
- ・全体コンセプトでは、「市民と来街者がともに憩い」と記載されている。市民と来街者の両方を意識すると言うのは簡単だが、そのバランスについてもう少し詳細を記載した方がよいのではないか。若い世代にとっては、新しくデッキ等が整備されただけでそこに訪れたくなるとは考えにくい。
- ・関連事例として、環水公園は、若者や来街者の注目を大きく集めているように感じている。「世界一美しいスタバ」と評されたスターバックスコーヒーがあってここまで注目されることになった。来街者にも注目してもらうためには、来街者も意識した内容を検討してはどうか。

＜丸谷委員長＞

- ・全体コンセプトの考え方として、まずは市民が普段使いとして楽しめる環境をめざして、散歩しやすい空間であったり、居心地の良い緑地整備を捉えていると思っている。急に来街者を集めるかたちではなく、まずは市民が楽しんで、それから来街者もそこに集まりたくなるような環境を目指す方向性が金沢らしくて良いと感じている。

＜片桐委員＞

- ・若い世代が来にくいという指摘があったが、そういった方々は少し遠くからやってくる市民であり、来街者に近い存在なのではないか。スケール的にもまずは地域住民が日常的に訪れて楽しい場所になり、そこに他の市民が加わり、更に来街者も訪れるようになるというのが良いのではないか。
- ・桜橋右岸下流河岸緑地においては、規模は大きくないが、交通ネットワークの観点も重要である。城下町金沢周遊バスのバス停やまちのりポートはあるが、基本的には駐車場がないため、基本的に徒歩や自転車で訪れる事になる。そのため、歩行者にとって利用しやすい交通拠点としての機能が計画に盛り込めると良いのではないか。
- ・現地は片側1車線で、バスが停車すると自動車の待機列ができてしまうことや、接している歩道も狭いことから、歩きやすくすることで周辺地域の方々も使いやすい場所になって人が訪れるようになるのではないか。

＜伊藤委員＞

- 既にまちのりポートやバス停が設置されており、ある種の交通ハブにもなっているため、小さいモビリティハブとして計画に明示できると良い。どのように人に来てもらうのか、現在は自転車とバスのみだが、今後市の交通政策のなかで多様な遅いモビリティが出てきたときに交通拠点としての機能を求められることが想定される。
- 河川空間と接続する桜橋の階段は小さく細いため、知らない人は階段があることにも気が付きにくい。河川空間との連続性については工夫が必要だが、現状のように直接橋からアクセスしてもらうのか、一度緑地に人を引き込んでから河川敷に導くかたちなのか、また整備後は緑地内で備品の貸出などの機能も検討するのであれば、借りた備品を運びやすいかどうかなども考慮しながら整備内容を検討できると良い。

＜丸谷委員長＞

- 桜橋右岸下流河岸緑地については、資料に記載のある乙川リバーベースの事例も参考にして、備品の貸出などもできる拠点としたい。また、伊藤委員からのご指摘のとおり、モビリティハブについても、計画に反映してほしい。

＜稻荷委員＞

- 室生犀星文学碑近くにあるトイレだが、過去に防犯に関する勉強会があった際、出入口が男女同じ位置だと引きずり込むことができてしまうため、防犯の観点で危険だということを聞いた。トイレを設置・改修する際は、地域の安心安全の観点でそのような危険性が少ない設計としてほしい。

＜丸谷委員長＞

- 照明などを設置して人が集まるような空間となれば、防犯対策にもつながる。

＜諸江委員＞

- 桜橋右岸下流河岸緑地にも、トイレがあると良いのではないか。緑地で滞在している方々が犀星碑そばのトイレまで行くのは手間ではないかと感じると、複数個所トイレがあれば改修時なども便利ではないか。

＜石川委員＞

- 20～30年前頃、犀川河川敷の右岸にアート作品を並べたイベントがあった。このような地道な取組やサイガワリバーサイドアクトなどを経て、今回の整備計画の策定に至ったと感じている。

＜丸谷委員長＞

- ・今年度もサイガワリバーサイドアクトをまさに現在開催中である。ソフト面での様々な仕掛けを実施しているため、ぜひお越しいただきたい。

＜甚田委員＞

- ・以前、金沢美術工芸大学の作品を犀川で展示していたことがあったが、学生が雨の日も屋外で現場対応をしている姿を見て大変そうだと感じたのを覚えている。一定期間対応するとしたら、先ほど意見で出たようなトイレや電源の機能がやはり必要であり、イベントの運営側にとっても利用しやすくなると良い。
- ・桜橋右岸下流河岸緑地はそういう意味でも多機能な施設になると良いと考えており、交流や回遊性の観点も含めて検討してほしい。

＜丸谷委員長＞

- ・次回は、計画の具体的なものをお示しできたらと思う。  
今回の議事はこれで終了する。